

# アートをもりこみ かかりやすいクリニックへ

## いよいよ 設計作業開始

現在の鳳クリニックは、築40年を超えており、新しい建物での診療が待ち望まれています。次の40年を見据えた医療構想を実現できるように、建設委員会で議論を重ねています。このたび、設計会社が決定し、いよいよ基本設計の作業が開始されました。

8月の委員会には、担当する設計士さんが初参加し、光を取り入れた建物やコミュニティを大事にする場づくりなど、印象的で期待が膨らむ紹介をしてくださいました。

8月後半には現在の建物の調査と、職員へのヒアリングが3日間かけて行われ、良いところも、悪いところも、日々の業務で感じていることを伝える機会と

なりました。  
新型コロナウイルスのよ  
うな、新興感染症に対応で  
きる区画や患者さんが過こ  
しやすい待合、スタッフの  
効率的な動線の検討、介護  
事業所を含めたフロアづく  
りなど、議論を重ねていま  
す。

またアート部門も会議に  
参加し、耳原鳳クリニック  
コンセプトストーリーを創  
作しています。今後も多く  
の方にアートに参画してい  
ただき、文字通り創り上げ  
ていきたいと思えます。



# 建設協同基金へのご協力を

新たなクリニックは、ソーシャルワーク機能もち、障がいのある方、LGBTQ、外国人の方など、

現状の医療機関では、かかりづらさを感じる人たちにも配慮したクリニックをめざしています。これまでで

上に、地域の方々に信頼される医療要求にも対応していきたいと考えています。  
2025年4月の完成予定で建設運動を進めていきます。協同基金への協力や、会員増やしに職員一丸となって取り組みます。  
建設運動のスタートとなる「耳原鳳健康まつり」を、10月30日に行いました。新型コロナウイルス流行のため3年ぶりとなり、開催場所の駐車場は、まさに新クリニックの建設予定地です。当日は多くの方にお越しいただき、建設運動のキックオフを皆さんと一緒に宣言しました。

(耳原鳳クリニック  
事務長 川畑 望)

# 鳳クリニック新築に向けて

## 新しいクリニックにも 心配りをした空間や色彩を

鳳クリニック新築に向けて、9月27日夕方に、色彩心理学や環境心理学を長年研究されている木村千尋先生にお越しいただき、30人近い職員が現地とウェブで参加しました。

現在広まっている色彩検定の発定にご尽力されたことや、色彩や空間などの環境が心理に及ぼす影響のお話、色の組み合わせによって見えにくい配色があるなど、身の回りにあるサインや表示にも気を配ることの必要性を学びました。

現在講師をされている宝塚大学で、看護学生さんとホスピタルアートの授業に取り組んでおられる様子や、色彩や内装の計画に関わられた高槻赤十字病院の緩和ケア病棟について、照明や家具・室名札までも細やかな配慮をされていること、また患者さんとご家族の過ごされている様子をお聞きし、中には涙を浮かべるスタッフも。



▲学習会の様子



▲スタッフから多くの質問が



木村千尋先生

### <当日の感想から>

- 誰にとつても居心地のいいクリニックは？と改めて考えることができた。
- 緊張をほぐす色は？落ち着く色は？またお聞きしたい。
- アートやカラーの重要性を感じることができた。
- 自然光を取り入れながら、「季節が感じられるクリニックにしたい」と思いました。
- 先生からパワーをもらった。自分自身ストレスをためないようにしながら、笑顔で帰ってもらえるような看護をこれからもしていきたい。

また「医療に携わるスタッフのメンタルタフネスが重要である」ということで、自身の傾向をチェックしたり、別の地域で関わっておられるクリニックとスーパーマーケットのコミュニケーション活性化の取り組みなど、盛りだくさんの内容をお聞きしました。  
時間が足りない中でしたが、質問もあがり、スタッフからは、鳳クリニックの新たなコミュニティスペースについても、アイデアが生まれていたようでした。